

県職連合23回・県職労119回臨時大会

賃金改善
人員確保
超過勤務

課題解決へ春闘方針を確立

岩手県職労

月2回刊=1504号
2018年3月15日 発行
発行日 毎月15日30日
発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内 岩手県職員労働組合 印刷所 盛岡市上田二丁目17-4 有限会社 ジョー印刷企画 一部 40円
組合員購読料は組合費に含む



▲賛成多数で春闘方針などを決めた第119回臨時大会

退職手当引下げ相当の「賃金回復が新たな課題」

3月3日、県職連合第23回・県職労第119回臨時大会が開催され、17確定闘争の到達点と中間総括をもとに、5年連続の賃上げ、退職手当引下げ相当分の賃金回復、諸手当改善、人員確保、超過勤務の全額支給などを柱とした18春闘方針について提起され、議員の補強発言を受けて方針が確立された。そして、確定闘争からの継続課題の改善に向けて意思統一をはかった。

開会に当たり、小野中央執行委員長は「東日本大震災から間もなく7年を迎えるが、大規模災害に対応できる職員体制とは程遠いと言わざるを得ない。来年度組織体制が公表されたが、現場課題に対応できるのか

考える時期である。1000人規模の欠員が継続し、かつ過重労働が放置されたままである。組合が組合員の思いや職場実態に寄り添って改善要求をしながら取り組みを進める必要がある。当局の現場への責任押し付けを許さず、職員の立場に立った改善をさせる運動構築に全力を挙げよう」とあ



▲春闘要請書を手渡す小野委員長(右)

人事課総括課長交渉／春闘要求書を提出 18要求前進に向け春闘交渉実施

来年度欠員100人超継続・人員確保強く求める

3月3日臨時大会での18春闘方針確立を受け、3月8日、知事あて春闘要求書を佐藤人事課総括課長に提出し、交渉を行った。

3月3日臨時大会での18春闘方針確立を受け、3月8日、知事あて春闘要求書を佐藤人事課総括課長に提出し、交渉を行った。主幹任用は引き続き取り



▲賃金・人員等で当局を質す県職労交渉団

組を進めていること、勤組を促進すること、勤組の運用上の工夫も復興加算枠に代わり、昨年12月期から特別加算枠を設け、勤務意欲確保の観点も考慮して対応していると

【諸手当改善】 交通用具利用に係る距離区分の新設や高速道路利用の手当改善は課題意識を人事委員会と共有していると

【超勤課題】 12月補正時に所要額を算定して予算措置をしていること、人事管理費の部局間調整を実施しており、予算不足の際は対応するとして

【今後の取り組みに向けて】 交渉では、来年度も大規模欠員が継続する厳しい実態が明らかとなり、かつ多くの課題で改善策が示されず継続課題となった。引き続き、当局を追及し、勤務環境の改善に全力を挙げる。

【人員体制】 来年度の新規採用は前倒し採用7人を含めて176人となること、任期付職員の内定予定者は28人、他県応援職員は100人程度と見込まれるとした。一方、退職者数は180人程度となること、欠員数は十数人程度解消するも100人を超える欠員が見込まれると

【人事異動・住環境整備】 着任期間は1週間以内であり、新所属と話し合い適切に着任日を決定していた

【超勤課題】 12月補正時に所要額を算定して予算措置をしていること、人事管理費の部局間調整を実施しており、予算不足の際は対応するとして

【人員体制】 来年度の新規採用は前倒し採用7人を含めて176人となること、任期付職員の内定予定者は28人、他県応援職員は100人程度と見込まれるとした。一方、退職者数は180人程度となること、欠員数は十数人程度解消するも100人を超える欠員が見込まれると

【人事異動・住環境整備】 着任期間は1週間以内であり、新所属と話し合い適切に着任日を決定していた

【超勤課題】 12月補正時に所要額を算定して予算措置をしていること、人事管理費の部局間調整を実施しており、予算不足の際は対応するとして

【人員確保課題】 獣医師等の専門職種の欠員解消が喫緊の課題。専門職は休みたくても休めないという実態である。処遇改善を含めて対応強化を。

【超勤課題】 12月補正時に所要額を算定して予算措置をしていること、人事管理費の部局間調整を実施しており、予算不足の際は対応するとして

【超勤課題】 12月補正時に所要額を算定して予算措置をしていること、人事管理費の部局間調整を実施しており、予算不足の際は対応するとして

【超勤課題】 12月補正時に所要額を算定して予算措置をしていること、人事管理費の部局間調整を実施しており、予算不足の際は対応するとして

【超勤課題】 12月補正時に所要額を算定して予算措置をしていること、人事管理費の部局間調整を実施しており、予算不足の際は対応するとして

【超勤課題】 12月補正時に所要額を算定して予算措置をしていること、人事管理費の部局間調整を実施しており、予算不足の際は対応するとして

明日は明日の風が吹く... だから明日に備えなさい! 入院は日帰りからお支払い、ケガのときは通院だけでも保障。組合員同士の助け合いの輪にあなたもぜひ! 自治労共済本部

東日本大震災から7年が経過し、沿岸被災地を中心に鎮魂の祈りがささげられた。発災時刻に黙祷を捧げた方も多に違いない。震災から私たちは取り巻く社会の在り方は震災前から改善したのか。震災復興に邁進する時期もピークを迎え、災害公営住宅や津波防潮堤の整備などハード面は着々と整備されつつある。しかし、なりわいの再生や心のケアなどのソフト面は依然課題が山積のままだ。震災後の働き方も震災直後よりは落ち着きを取り戻しているが、大規模な欠員が継続し、長時間労働で職員負担は増している。県はラグビー・ワールドカップ2019、三陸復興博のための体制強化をすすとした。一昨年の国体に続き、イベントが目白押しとなる。震災復興をアピールする機会として、地域で山積する課題への対応や実態を踏まえた人員配置などの改善がなされる。まさに真の復興は程遠い。当局は震災の教訓をどう組織体制に活かしたのか。一昨年の台風10号災害の対応もすっかり総括が必要だ。平時はもとより、大災害に万全の対応ができる組織体制の拡充・対策強化が求められる。

一関支部

執務環境・住環境の改善に向け独自要求交渉

総務センター所長から前進回答引出す

一関支部は組合員アンケートで集約された職場実態に基づき、合同庁舎の施設設備に関する職場の労働環

境と公舎の維持修繕に関する生活環境についての「支部独自要求書」を作成、3月1日一関総務センター鈴木所長に提出する

とともに交渉を行った。阿部清佳支部長からの趣旨説明のあと佐々木副支部長が内容を補足説明し、回答を求めた。

職場環境については、「庁舎の抜本的な改築計画はしばらくはないと思われるので、修繕・改修が必要な場合は、管財課に予算要求をしてもらう」「庁舎北側の執務室・会議室の冷暖房については、冬期間のストーブ貸出しやパーティション切り替えによりできるだけ快適に

過ごせるよう工夫していく」との回答があり、老朽化した公舎の修繕については、「個別具体の修繕箇所積極的に対応していく」との回答があった。

また千厩地区合同庁舎に関する事項は、庁舎管理者である千厩土木センターに申し送られ、来客用駐車場スペースの不足への対応などの回答を得た。



▲独自要求書を手渡す阿部支部長(右)

阿部清佳支部長からの趣旨説明のあと佐々木副支部長が内容を補足説明し、回答を求めた。

職場環境については、「庁舎の抜本的な改築計画はしばらくはないと思われるので、修繕・改修が必要な場合は、管財課に予算要求をしてもらう」「庁舎北側の執務室・会議室の冷暖房については、冬期間のストーブ貸出しやパーティション切り替えによりできるだけ快適に

過ごせるよう工夫していく」との回答があり、老朽化した公舎の修繕については、「個別具体の修繕箇所積極的に対応していく」との回答があった。

また千厩地区合同庁舎に関する事項は、庁舎管理者である千厩土木センターに申し送られ、来客用駐車場スペースの不足への対応などの回答を得た。

税務協総会

独自要求積み上げ職場改善を 2018運動方針・役員体制を確立

3月10日、税務職員協議会(会長・藤原茂・盛岡県税部分会)は、17運動の総括を踏まえた18運動方針を確立すべく、総会を開催した。

開会に当たり、藤原会長は「公正・公平な税務業務の実施のためには人員体制の確立、税務のプロフェッショナルの人材育成、さらには働きやすい職場環境整備が必要だ。税務でも残念ながら病休者もいることや、働きやすい環境となっ

ていない。職場の不満を積み上げ、組織としての業務が遂行できるよう運動の強化を」とあいさつ。その後、17年度運動経過報告とともに、職場点検を



▲2018年度運動方針等を決めた税務協総会

踏まえた独自要求交渉の推進、組織強化、徴税手当の維持・改善などを柱とした18運動方針が提起され、満場一致で採択された。併せて、2018年度役員体制も確立された。役員体制は次のとおり。

会長 藤原 茂(盛岡県税部分会) 副会長 鳥屋部 圭(県南県税部分会) 副会長 佐藤 勝志(盛岡県税部分会) 事務局長 八重樫 博(県庁税務課) 事務局次長 伊藤 貢(宮古県税室)

3月4日、奥州市議選の投票が行われ、県職労推薦の「佐藤いくお」さんが2912票を獲得、見事2位当選を果たした。組合員のご協力に改めて感謝する。佐藤さんは「地域交通の確立や安心して暮らせる福祉・産業・雇用の確保に取り組んでいく」と力強く決意を述べた。

今後の活躍に期待する。 <お詫ごと訂正> 先の機関紙「自治労都道府県税務職員連絡協議会」参加報告記事の中で、報告者名が佐藤勝志税務協事務局次長となっていました。お詫びし訂正いたします。

県議会 2月定例会

小西和子 県議会報告



小西 和子 県議会議員

県議会2月定例会では、県職労推薦議員・小西和子さんが予算特別委員会において、人員確保、職員の勤務意欲確保策などをはじめ県職員を取り巻く諸課題を

当局に追及し、改善を促した。2月県議会での主な質疑応答は次のとおり。

【総括質疑】 ①人員確保策 (小西議員) 欠員解消の見通し、人員確保策は、(知事) 来年度の欠員数は、今年度当初に比して一定程度の減少が見込まれる。特別募集の実施等を含め人員確保策を継続し、職員体制の充実に努める。

②専門職種の確保 (小西議員) 専門職種の充足状況と対策は、(総務部長) 2月1日時点で一般行政職を除いた欠員は68人。総合土木41人、獣医師6人である。獣医師確保に向け来年度に修学資金貸付額を月額18万円に引上げるなど拡充に努める。

③職員の勤務意欲策 (小西議員) 退職手当の引下げ等を踏まえ、職員の勤務意欲確保にどう努めるか。(知事) イクボス宣言を行い、職員の仕事と生活の調和がとれる職場環境づくりを進めた。今後も職員の勤務意欲確保に向け様々な視点から取り組みを進める。

【総務部審査】 (小西議員) 守衛の民間委託を進めるとしているが、配置体制を再考すべき。(総務部長) 来庁者の逮捕事実を踏まえ、守衛業務の在り方、体制を検討していく必要があると考える。

(小西議員) 災害時に運転技士の人員不足が明らかであり、補充すべき。(管財課長) 災害時の車両の稼働状況等を把握し、人員配置も含め検討していく。

さようなら原発若手集会2018 原発をなくし経済成長に

デモ行進で「脱原発」を訴える

3月10日、さようなら原発若手県集会2018実行委員会が、「さようなら原発若手県集会2018」を盛岡劇場(盛岡市)を会場に開催、350人の市民が集会に参加した。

第1原子力発電所事故から7年を迎え、弁護士・映画監督の河合弘之さんが「原発をなくそう!自然エネルギーへの道」を講演。はじめに自身が制作を手掛けた「日本と原発 4年後」「日本と再生」を紹介し、「日本と再生」のダイジェスト版を放映。諸外国では、自然エネルギーによる安心で安価なエネルギーの確保を進め経済成長を遂げている一方で、安倍政権は原発依存に固執するた

め、世界経済から取り残されている問題を指摘。河合さんは、海外では自然エネルギーの日本企業の発電施設が多々ある実態を伝え、原発ゼロの運動は、国が滅びるのを救う闘い(救国)であり、原発ゼロほど重要な

社会的課題はないと訴えた。参加者は集会後にデモ行進を行い、原発廃止をアピールした。

当選者発表

清温荘宿泊券は県庁支部・矢羽々さんに

図書カード

菊池春彦(県支部 厚狭指導分)

林 春彦(盛岡支部 林務分)

伊藤節夫(盛岡支部 林務分)

平吉美智(盛岡支部 県税部分)

佐藤善博(盛岡支部 消防分)

飯坂 覚(盛岡支部 産業)

遠藤俊明(盛岡支部 産業)

松田正則(北上支部 農村)

整備センター分会

菅川清春(胆江支部 産業)

技術短大水分会

大澤 仁(宮古支部 林務)

室分会

宮古市議会議員選挙・4月15日告示/4月22日投票

「竹花くにひこ」さん 勝利へ

友人・知人に一声を



宮古市議会議員選挙・4月15日告示/4月22日投票

「竹花くにひこ」さん 勝利へ

友人・知人に一声を